

灯

昨年末に安倍政権が誕生し、民主党も新代表となり新年が来た。今年こそ新しい日本国づくりの出発の年と信じていた。

今回の選挙は自民党が大勝し、前回は民主圧勝と小選挙区制のすばらしさを実感させられた。

この民意の振れの大きさは、はいまだ二大政党制がわが国に定着していない証拠だろう。米国ではおおむね6対4程度の振れと



草野 義輔

聞いています。成熟した状況になるまでの過渡期と思いたい。ただ、安倍首相が選挙中発言したことの数

つかが早くも先送りになるように、民主のマニフェスト違反を言う資格があるのかと感ずるが、もう少し経過観察が必要だろう。

選挙の大きな争点は原発問題だ

った。各マスコミのアンケートでは反対が圧倒的多数。しかし、結果は原発に一番寛容だった自民党が勝利した。なぜ世論調査と投票結果が食い違うのか。一つは原発だけが争点ではなく、経済や外交など課題山積であったこと。またアンケートは聞き方次第で答えが大きく変わることもおき

いた。原発は、と聞かれれば私も「ない方が」と答える。しかし、原発を廃止し電気代大幅アップでいいか、と聞かれればそれは望まぬ。また、電気代が高騰すれば産業の生産性が落ち、結果雇用はますます厳しくなる。

アンケートや世論調査はあくまでも判断の際の参考程度とし、単に信じ込んではいけな、と自戒している。(昭和学園高校理事

長・日田市)